

仰臥位から角度変化をつけた時の心電図変化についての検討

○田代千夏 下川絹次郎 吉岡佳奈* 石橋栄一*
長谷健二* 眞々田賢司* 豊田智彦** 佐野剛一**
(株式会社 サンリツ、東千葉メディカルセンター
検査部*、同 循環器内科**)

【目的】

安静時 12 誘導心電図検査は、通常仰臥位で実施する。そして仰臥位から立位になると、心電図の ST 部分に変化が起きることは既に報告されている。しかし、ベッドを傾けた状態で心電図検査を実施した時の、心電図変化は報告されていない。そのため今回我々は、ベッドの角度を変化させた時の心電図変化を検討した。

【方法】

健康成人 20 名（男性 20 代～50 代：15 名、女性 20 代～30 代：5 名）を対象とした。仰臥位での安静時 12 誘導心電図を基準の 0° として 0° 30° 45° 60° の順に約 2 分おきにベッドのヘッドアップを行い、心電図記録を実施した。

【結果】

対象のうち、5 人（25%）でベッド角上昇に伴い何らかの心電図変化が認められた。変化を示した被験者全てで、ベッド角 30° より V2 の ST が 1mm 上昇し、60° で 2mm の上昇が見られた。しかし、R 波と T 波の関連性における変化は見られなかった。

【考察および結論】

今回の検討では、ベッド角 30° 以上で一部の被験者に V2 誘導の軽微な ST 変化を生じることが分かった。ベッド角を変えたことにより、特に V2 誘導直下の心臓の位置が変化した可能性が示唆される。

(連絡先 047-487-2851)